

令和2年度 学校評価アンケート集計結果分析・考察

1 回収率

表1 令和2年度の全体の回収率

	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
生徒	97.3%	96.3%	99.9%	98.3%	99.9%
保護者	82.9%	85.0%	96.9%	82.9%	87.0%

表2 学年ごとの回収率

	全体集計			1年			2年			3年		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
生徒	100	86.8	97.3	100	95.0	98.8	100	92.5	97.5	100	86.8	95.5
保護者	100	56.4	82.9	100	80.0	95.6	94.5	57.5	79.7	100	56.4	73.0

本校は平成21年4月、仙台商業高等学校と仙台女子商業高等学校が統合、新しく仙台市立仙台商業高等学校として開校し、12年が経過しようとしている。上の表の平成28年度は全学年が8学級に揃った5年目の年度であり、今回の分析結果が現在の「仙台市立仙台商業高等学校」を考えていく上で基本的なものになるとらえて今年度の分析を進めていきたい。

なお、回答総数は、生徒925（男子328、女子597）、保護者788（男子生徒の保護者271、女子生徒の保護者517）である。

2 集計方法

設問内容については、10年前から生徒用のものに、「ボランティア活動への参加」に関する質問項目を追加している。なお、男女共学にとまなう変化についても読み取れるよう配慮した。

生徒用は設問1から18までの項目、保護者用は1から17までの項目に対してA・B・C・D・無回答の順に回答数とその回答率（%）を集計し、さらに100%積み上げ横棒形式のグラフに置き換えて集計表示した。

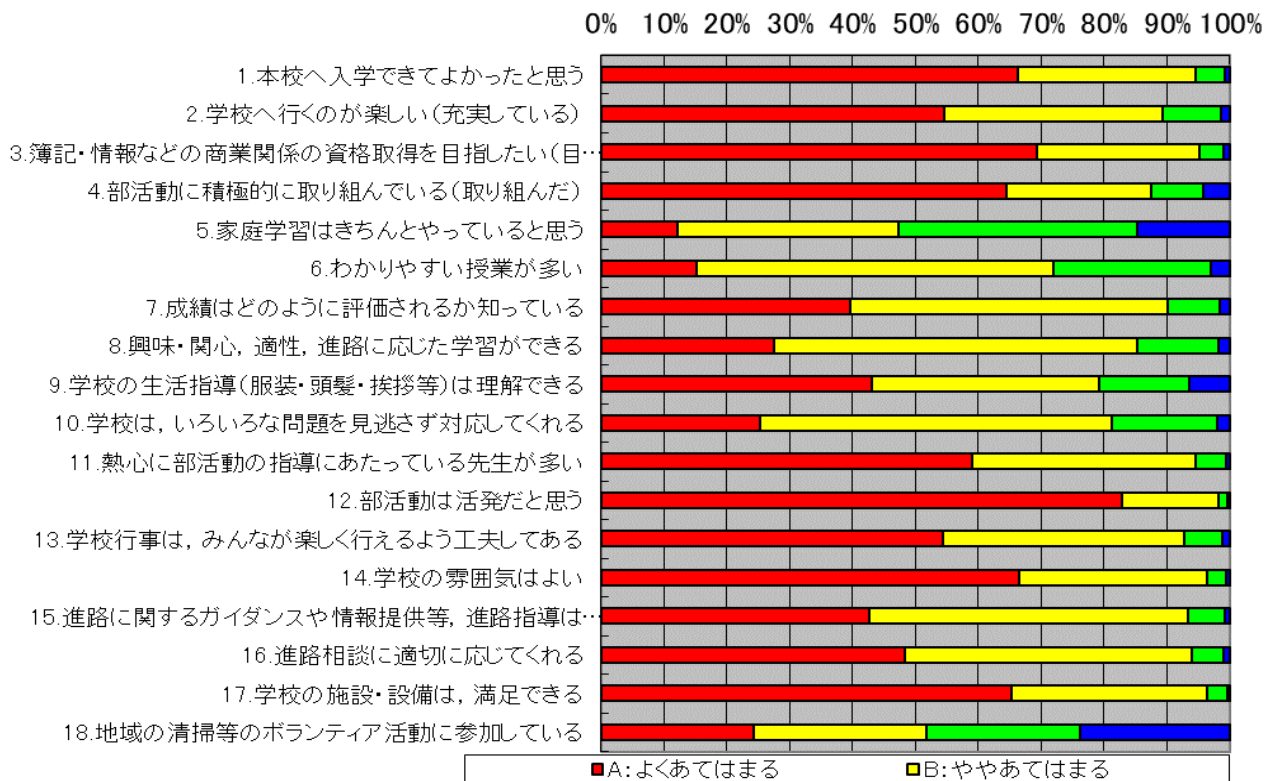
設問の最後には自由記述欄を設けて、設問項目に対する意見や項目以外に対する提言及び感想を記入してもらっている。

- (1) 横棒表示は生徒毎、保護者毎、教員毎に作成。
- (2) 回答内容と回答数は全体、学年別、学科別に作成。
- (3) 自由記述欄は、記述された文言を忠実に羅列集計。

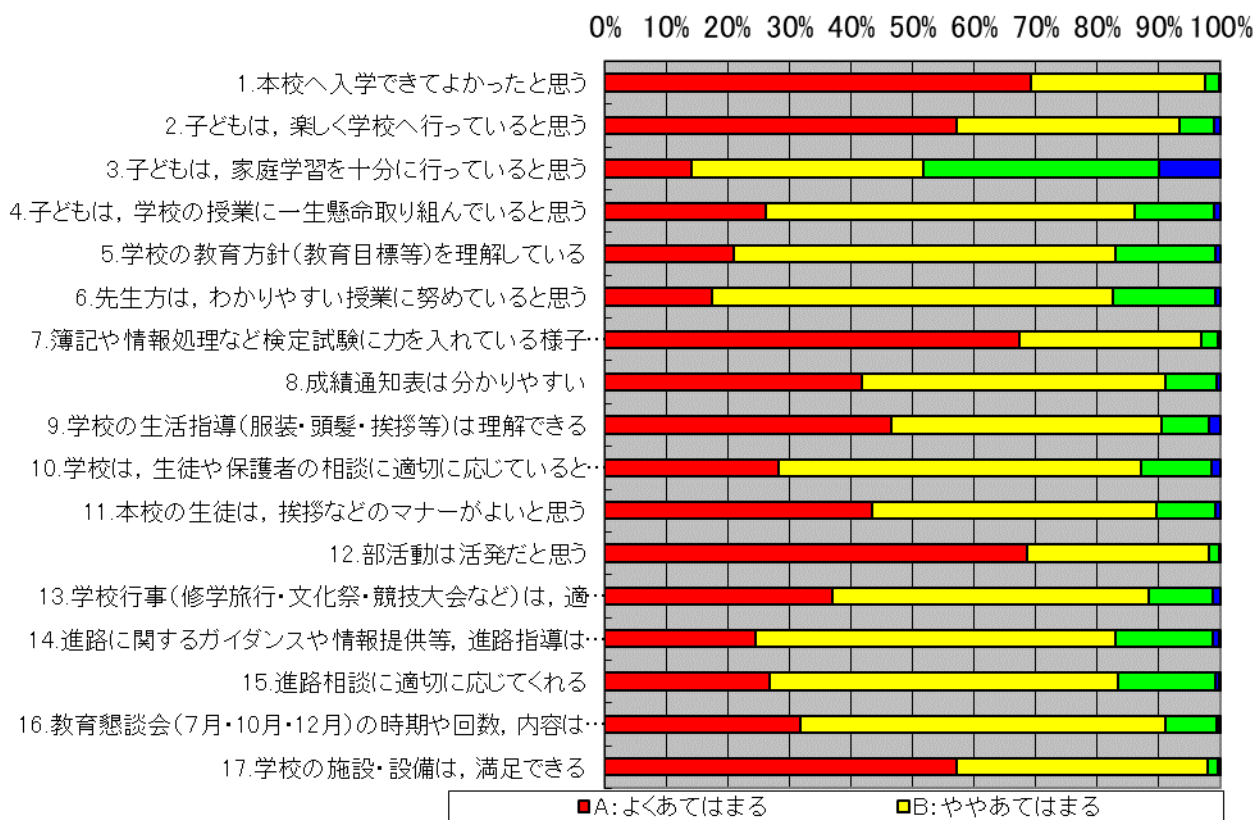
3 公表範囲

- (1) 仙台市教育委員会に概要を報告
- (2) 保護者に概要を配布
- (3) 学校評議委員会に概要を提示
- (4) 学校のホームページに概要を掲載・公表

令和2年度 学校評価アンケート（生徒対象）



令和2年度 学校評価アンケート（保護者対象）



【分析・考察】

1 学校に対する全体的な印象

2 ページの図を一昨年度・昨年度のものと比較すると、一昨年は生徒・保護者とも「よくあてはまる」「ややあてはまる」がともに若干減少したが、昨年度はともに増加した。今年度は生徒はさらに増加し好結果だったと言える。が、保護者は減少した。以上のことから本校の新しい教育がますます定着してきていることを物語っているものの、今年はコロナウィルス感染症のため、保護者に学校での様々な行事に参加していただけないことが、影響していると推察される。

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では94%を超え、1年生全体が94.9%、2年生が94.9%、3年生が93.9%でどの学年も好ましい評価となっている。ほとんどの生徒が満足感を感じながら登校してきている。このことから、本校の地道な教育活動が効果的に行われてきた結果といえよう。

保護者からは昨年度同様97%以上が入学できてよかったという回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しては昨年度までと比較すると、幾分減少傾向が見られ、生徒は1年生が最も高く(91.5%)、3年生(89.9%)、2年生(86.9%)となっているが、保護者は学年に関係なく90%を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。が、先述したように、コロナウィルス感染症のため、あらゆる教育活動において工夫をしなければならず大変な一年であった。

2 目的意識

「簿記・情報などの商業関係の資格取得を目指したい(目指した)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で95.2%(昨年度と同じ)となった。内訳は、1年生が97.8%(昨年度より2.1ポイント上昇)、2年生が95.2%(昨年度より1.0ポイント上昇)、3年生が92.6%(昨年度より2.9ポイント下降)となった。どの学年も90%を超える結果となった。1年生・2年生は、「今のうちに多くの資格を取り、進路等に活かしてゆく。」という学校の目標を理解し、取り組んでいることが推察される。その反面、現3年生は、2年生の時も「資格を取っておきたい。」という意識が薄く、その影響があると推察される。しかしながら、本校商業科の掲げている「全商1級3種目以上の合格者を100名以上」という数値目標の達成に向けて、資格取得の必要性と取得に対する意欲の喚起に努めていく必要がある。

「部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んだ)」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で87.4%(昨年度より1.0ポイント上昇)となった。コロナという厳しい現状の中で、数値が上昇したことは、学校を活気にづける一つの要素となる。しかし、内訳を見てみると、1年生が88.6%(昨年度より2.5ポイント下降)、2年生が87.8%(昨年度より7.4ポイント上昇)、3年生が85.8%(昨年度より2.3ポイント下降)となり、学年間での差が生じる結果となった。コロナが部活動の取り組みに大きく影響を及ぼしたことも推察された。

保護者において、「簿記や情報処理などの検定試験に力を入れている様子がよく分かる。」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で97.0%(昨年度より0.7下降)となった。内訳は、1年生が97.7%(昨年度より1.2ポイント下降)、2年生が96.9%

(昨年度より 0.8 ポイント上昇) , 3 年生が 96.0% (昨年度より 1.9 ポイント下降) となった。どの学年も、95%以上を超える結果となった。その中で、2 年生は生徒・保護者とも高い数値が残され、同じような意識であることが示された。

「部活動は活発だと思う」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 98.1% (昨年度と同じ) になった。内訳は、1 年生が 97.7% (昨年度より 0.7 ポイント下降) , 2 年生が 99.2% (昨年度より 2.3 ポイント上昇) , 3 年生が 98.9% (昨年度より 0.3 ポイント上昇) となった。この項目も 95%以上を超える結果となった。上記の 2 項目に関しては、生徒・保護者とも「商業関係の資格取得を目指しながら、部活動にも積極的に取り組んでいく」という学校の方針を理解し、受け止めていると推察される。

今後は、厳しいコロナ禍の中で、生徒がより充実した学校生活を送るためには、創意工夫と様々な実践を積み重ねながら教育活動の充実が必要である。

3 学習意欲

「家庭学習はきちんとやっている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 47.4% (昨年度から+5.3 ポイント) となった。内訳は 1 年生が 47.8% , 2 年生が 47.1% , 3 年生が 47.1% (昨年度は 1 年生が 56.7% , 2 年生が 33.1% , 3 年生が 37.6%) となった。2 年生は昨年度より 14.0 ポイント、3 年生は 9.5 ポイントの上昇となったが、1 年生は、昨年度より 8.9 ポイントの下降となった。みやぎ学力状況調査の結果 (1・2 年生) においても、家庭学習についての回答は、「宿題・課題のあるときと定期考査前」もしくは、「定期考査前」の回答が上位を占めた。また、家庭学習をする上での悩みについての回答は、「家庭学習に集中できない」, 「家庭学習と部活動の両立が難しい」であり、日常生活の中で、「部活動と家庭学習の両立を目指しているが家庭学習に集中できない生徒」が多く存在することが浮き彫りになっている。

保護者において、「子どもは家庭学習を十分に行っている」の項目に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 51.8% (昨年度より-0.2 ポイント) となった。内訳は、1 年生が 44.4% , 2 年生が 56.5% , 3 年生が 56.4% (昨年度は 1 年生が 52.0% , 2 年生が 45.0% , 3 年生が 55.7%) となった。生徒と保護者の間にポイントの多少のひらきが見られたが、学年の分析傾向は同じようなものとなった。保護者からの目でみて、1 年生の男子の 30.7%と 2 年生男子の 42.2%という結果は、学校側も注意すべきであり、何らかの対策が必要である。目的意識での「資格取得を目指している・目指した」との回答を密接につなぎ、どの学年においても資格取得を目指すには、家庭学習が不可欠であると同時に、学習習慣や基礎学力向上が必要である。そのためには、日々の授業や朝自習に対する姿勢が、学習の積み重ねが資格取得につながる。ひいてはこのことが、大学進学や就職といった進路実現につながることを生徒に自覚させるとともに教員も教科で工夫を重ね、自己学習のできる生徒を家庭との協力をえて、指導していかなければならない。

「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 71.9% (昨年度より+8.0 ポイント) となった。1 年生 75.9% , 2 年生 64.4% , 3 年生 75.4% (昨年度は 70.3% , 2 年生 53.1% , 3 年生 68.6%) となった。1 年生は、昨年度より +5.6 ポイント、2 年生は+11.3 ポイント、3 年生は+6.8 ポイントとなった。いずれの学年でも改善が見られたが、学年進行でより学習が高度化していく中、授業が理解できず、家庭学習を含めた自己学習の意欲が低下している要因となっているのではないかと推察する。特に、数学や商業

科目において、生徒が理解しにくくなっていることが予想されるので教員側が実態をよく理解し、授業の工夫や学習資料の充実をしていく必要があると考える。教員側も現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、わかりやすい授業を目標とした教材研究等を通じ、今後も授業力向上を図り、生徒の学力向上に努めていかなければならないと考える。

保護者において、「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で82.5%（昨年度より-3.1ポイント）となった。1年生81.0%、2年生82.0%、3年生85.0%（昨年度は1年生88.4%、2年生81.2%、3年生86.4%）となった。残念ながら、1年生において生徒と保護者の差が大きい項目となった。上記に示したように学校公開や情報発信を適時に行うとともに更なる教員側の研鑽が必要となってきている。

「成績はどのように評価されるか知っている」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で90.1%（昨年度より+0.8ポイント）となった。学年別では1年生89.6%、2年生90.1%、3年生90.6%（昨年度は87.0%、2年生88.1%、3年生92.7%）となった。3学年は、学習内容の把握と観点別評価において、考查結果だけでなく、日々の授業の積み重ねが評価につながっていることを生徒が実感したものと推察できる。1・2学年は、年度初めの最初の授業において、教科担任がシラバスを使って、学習内容や評価方法を説明したものの、まだ十分に理解していない生徒もいると推察されるので、今後もさらなる学習の評価について、観点別評価を深化させ、定着を図りたい。

4 生活意識

学校生活に関わる生徒への質問として、質問項目 1, 2, 4, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 17, 18, が挙げられるが、生徒質問項目 2【学校へ行くのが楽しい（充実している）】89.4%（前年比-0.5ポイント）、生徒質問項目 18【地域の清掃等のボランティア活動に参加している】51.8%（-5.2ポイント）のみ減少し、それ以外は上昇している。ほとんどが90%以上である。

上昇した項目の中で生徒質問項目 1【本校へ入学できてよかったと思う】94.6%（+1.4ポイント）であるが、生徒質問項目 2（上述）とは5.2ポイントの差が生じており、保護者も【子どもは、楽しく学校へ行っていると思う】93.4%（-0.9ポイント）となっている。理由はいくつか挙げられるであろう。

1つは、生徒質問項目 10【学校は、いろいろな問題を見逃さず対応してくれる】81.3%（+6.6ポイント）となっており、前年よりも増えてはいるが「何らかの」問題をかかえて言い出せない生徒が存在していると思われる。保護者の【学校は、生徒や保護者の相談に適切に応じていると思う】87.2%（-3.4ポイント）からも読み取れるように、さらなる生徒との関わり合いの中から心の「悩み」を吸い上げる必要があるようだ。

2つ目は、生徒質問項目 11【熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い】94.6%（+5.4ポイント）、生徒質問項目 12【部活動は活発だと思う】98.2%（+2.2ポイント）である一方で、生徒質問項目 4【部活動に積極的に取り組んでいる（取り組んだ）】87.5%（+1.0ポイント）となっている。また、生徒質問項目 18【地域の清掃等のボランティア活動に参加している】51.8%（-5.2ポイント）とも絡んでくるが、本校校訓の「自立・友愛・創造」にもあるように、自ら考え行動する姿勢を身に着けさせる必要があるのではないかと。

そのほかの項目について生徒質問項目 13【学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある】92.8%（+7.6ポイント）と、コロナ禍においても増加したことについては、先生方のご協力の賜物と考えられる。一方保護者は、【学校行事（修学旅行・文化祭・競技大会など）は、適当であると

思う】88.3% (-9.1ポイント) となっており、これは2年生の保護者の減少（修学旅行の中止）によるものと考えられる。

生徒質問項目9【学校の生活指導（服装・頭髪・挨拶等）は理解できる】79.1% (+4.1ポイント) ではあるが、保護者【学校の生活指導（服装・頭髪・挨拶等）は理解できる】90.4% (-1.2ポイント) となっている。このことから、今まで以上に保護者・家庭との連絡を密にしていく必要性を感じる。

最後に、気になる項目としては、保護者【本校の生徒は、挨拶などのマナーがよいと思う】89.6% (-2.4ポイント) が挙げられる。本校生の「売り」であるこの項目が下がってきたことは、生徒のみならず我々教職員も今後の指導を考える必要があるようだ。

全体を通して見ると、生徒のアンケートは2.3ポイント増加した一方で、保護者のアンケートでは2.4ポイント減少している。

5 進路意識

進路関係項目は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合が、生徒は全項目90%を超える結果を示している。しかし、保護者の割合は83%にとどまっている。この結果は前年度よりも保護者の割合が6%ほど下回っており、コロナ禍における保護者への進路指導に関する伝達手段を考えていかななくてはならない状況と分析する。

それ以外の今年度の調査結果については、生徒への3年生の進路達成状況、並びにこれまでの計画的な進路指導計画にもとづいた全教職員によるきめ細やかな進路指導の成果であると考えます。

今年度は昨年まで生徒と保護者の皆様が一緒に進路について考える機会になればと考え、保護者の皆様に進路ガイダンスへの参加案内をしていたが、コロナ渦の中で保護者の方々を学校や外部のガイダンス会場に参加を呼び掛けることを控えました。来年度以降は、3年生に行ったように動画配信で参考になる情報の提供を発信できるように考えたいと思います。

今後も生徒の高校卒業後の進路実現へ向けて、1年生の早い段階から進路意識の高揚を図るための具体的な指導に取り組んでいきたい。進路ガイダンスや進路情報の的確な提示、そして、生徒の興味、関心を踏まえ、生徒自身の職業適性を把握しながら自己理解を図り、それぞれの進路について真剣に考え、行動できるような進路指導をすすめていきたい。

6 男女差の大きい項目について

生徒の回答の中で男女間で最も大きな開きが見られた項目は、例年同様に「ボランティア活動に参加している」で男子68.9%、女子42.4%であった。その原因としては従来から指摘した通り本校は地域の清掃活動等に運動部が積極的に参加しているため、運動部への加入率の差が反映されたものと思われる。ボランティア活動を推進することは、本校の重点目標の一つでもあることから、今後も女子生徒を中心にボランティア活動の意義を周知させて参加を促していかなければならないだろう。また、ボランティア活動へ参加している割合が低落傾向にあり、特に1年生での男女での格差が（男子62.9% 女子38.5%）例年と比較しても大きくなっていることにも注目すべきであろう。

保護者の回答の中では、これも昨年度同様「子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う」であったが今年度は男子39.1%、女子58.4%で男女間の差は19.3%で、これは昨年度（17.5%）と比較するとやや格差が拡大している。学年ごとに見ると1・2年生での男子（1年30.7% 2年42.2%）女子（1年52.6% 2年63.4%）では昨年度と同じく20%を超える格差が

あるが、昨年と比較すると2年生では男女ともに大幅な上昇（男子 29.2→42.2%、女子 52.2→63.4%）が見られた。3年生では男女ともに上昇（男子 50.4% 女子 56.0%）が見られ、格差も縮小している。この項目については、昨年と同様に男女間のみならず保護者・生徒のアンケート結果にも大きな差が見られ、何をもちいて家庭学習とみなすかについて大きな認識のずれが存在することが伺われる。この差異の理由については不明であるが、今後の指導上留意すべきだと思われる。

7 その他

「施設・設備は満足できる」は、生徒（96.4%）・保護者（97.8%）、「部活動は活発だと思う」は、生徒（98.2%）・保護者（98.1%）と両項目とも90%を超えている。本校の施設設備は、公立高校としては全国でも有数なものであり、部活動も活発に行われている。それらが有効に活用されていることや環境整備にも力を入れていることから満足度が高いと思われる。現校舎も建設から来年度で23年目を迎えるが、今後も生徒が「楽しく」「安全に」学校生活を送れるように、保守・整備にあたっていきたい。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的なご意見やご要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、さらに充実した学校生活の構築に向け、教職員一同努力してまいりたい。今後も本校の更なる発展のために、忌憚のないご意見をいただきたい。